

インドネシアと日本の子供のための津波防災パンフレット 2

Making of TSUNAMI pamphlet for children in Indonesia and Japan 2

柴山 元彦 [1]; Dicky Muslim[2]; 香川 直子 [3]; 平岡 由次 [4]

Motohiko Shibayama[1]; Muslim Dicky[2]; Naoko Kagawa[3]; Yoshitsugu Hiraoka[4]

[1] 自環研オ; [2] パジャジャラン大; [3] 自然環境オフィ; [4] 生野高聾

[1] Natural Envi.Ins.; [2] Padjadjaran Univ; [3] Natural Environmental Ins.; [4] IKUNO High School for the Deaf

昨年度の地球惑星連合大会などでは、インドネシアの子供のための津波防災パンフやポスターを作成しそれを配布する準備までを発表した(柴山ほか 2006、Shibayama 2006)。

本研究ではその後の経過を報告する。作成したパンフレットは、6月に持参しジャワ島の海岸にある一部の村では直接メンバーが配布を行った。またインドネシア全土に配布する方法として、ボーイスカウトの全国大会において各支部から参加している代表者に説明行い1万5千枚を各地へ持ち帰り配布をお願いした。昨年12月にはインドネシアのパプア島ナビレ市の海岸にある2つの小学校において、このパンフの配布とそれを使ってDicky Muslimmが授業を行った。

インドネシアでは、パンフレットなどの印刷物を各子供に配布することはこれまでになかったことであるため本配布が初めての試みとなった。

ところが7月の始めにジャワ島南部で津波が発生した。パンフレットとポスターをその前に直接配布した村では全員が助かった。このことは1枚のパンフでも防災の効果が大きいことを示した。

また、日本語の子供用津波防災パンフレット(飛び出す絵本形式)も作成した。これを使用した授業が6月と11月に和歌山県の小学校で太田和良により実施された。その結果、小学生にこのパンフレットが有効である感触を得た。